

DKNリサーチニュースレター

#2035、2020年12月20日（日本語版）
（エレクトロニクス実装の最新海外情報）

今週の話題

混乱の2020年

2020年も残りわずかになってきました。振り返ってみると、今年は、新型コロナウイルスの感染に振り回された1年でした。その感染状況は、医療関係者の懸命な努力にもかかわらず、年末が近づくにしがって、拡大が広がっており、収束の目処はついていません。コロナ問題は、年末年始を跨いでの課題になりそうです。したがって、年度の区切りをつけるような状況ではないのですが、混乱する世界のエレクトロニクス業界、プリント基板業界の中で、どのような戦略を立てるかを考える上で、2020年の総括をしておくことは意味があることかと思えます。

今年の旧正月は、1月下旬でしたので、中国文化圏は、1月中に生産体制が落ちることを、想定していました。新型コロナウイルスの感染は、旧正月休暇に入る前に報告されていましたが、まだその影響を深刻には受け取られておらず、感染拡大が旧正月休暇に重なったことは、ちょうどよいタイミングで、休暇が終わる頃には、感染も収束に向かうのではないかと、安易に考えていた節があります。ところが、中国武漢に始まった感染が急拡大し、大規模な都市封鎖という事態に至り、中国国内のエレクトロニクスや自動車関連のサプライチェーンは機能不全に陥ります。少し遅れて、ヨーロッパでも感染が広がり、新型コロナウイルス感染は世界的な拡大となります。そして、米国での感染が他の地域を圧倒するようになり、ブラジル、インドと広がりを見せます。

しかしながら、エレクトロニクスや自動車産業などの生産が破滅的な打撃を受けたわけではありません。自動車の出荷は、いち早く回復に向かい、今年の第3四半期には、前年同期比でプラス成長にまでもどしているとのことです。世界的にリモートワークにシフトする企業が増えたために、これまで減少傾向にあったノートブックPC、タブレットPC、サーバーの需要が増加に転じ、台湾の硬質プリント基板の出荷は、最高レベルを維持しています。日本でも、硬質基板、特に高密度のビルドアップ基板の出荷は増える傾向にあります。

現在のエレクトロニクス産業の主要な部分を占めるスマートフォン市場は、2、3年前から、縮小傾向となっていますが、この傾向はあまり変わっていません。ただ、今年の特別な要因として、Apple社の新しいiPhone12のリリースが遅れたために、台湾のフレキシブル基板出荷は伸び悩みました。しかし、これも11月には回復に転じ、前年比38%増となっています。

世界の半導体市場も回復傾向が続いています。この半年の出荷は連続して増加しており、過去最高値に近づいています。そのためか、半導体製造装置の出荷も

増える傾向にあります。半導体メーカーが、この先の需要動向について楽観的な見方をしていることを示しているといえます。受動部品、接続部品、変換部品なども、この2、3ヶ月大きく伸びています。

このように見てくると、世界のエレクトロニクス産業が順調に回復しているかのように見えますが、これらのデータはあくまでスポット的なもので、個々の数値は辻褃が合わないところが少なからずあります。現在の市場データの収集方法を考えれば、当然なことで、数値そのものを正しいと仮定して、ビジネスプランを策定することはお勧めできません。

この2、3ヶ月のコロナウイルスの感染拡大にはすぎましいものがあります。感染症専門家といわれる人々も、3ヶ月先のことは予測できないようです。このような不確実な状況は、第二次対戦後初めてのことでないでしょうか。

例年であれば、年末年始休暇の間に、旧年の総括と、新年のプランニングを行うことをお勧めするのですが、コロナウイルスの感染には年末年始もありません。毎日状況は変わります。幸い情報化時代と呼ばれる現在は、毎日大量の情報が入ってきます。その中から、信頼性が高く、かつ価値のある情報を抽出するには、それなりの努力が必要です。使える情報を得るためには時間もお金もかかります。それをケチってはいけません。健闘を祈ります。

DKNリサーチ

マネージングディレクター 沼倉研史

今週のヘッドライン

2020年12月20日

1. NSTAR Global Services (米国のEMS企業) 12/8

新たに Idaho 州に建設した製造工場に、トレーニングセンター、部品供給の機能を併設。ユーザーへのサービスを短時間で処理する。

2. Apple (米国のエレクトロニクス大手) 12/12

Intel 社から、モデム部門を10億ドルで買収。これまでの Qualcomm 社に代わり、独自のスマートフォン用モデムを生産する計画。

3. Apple (米国のエレクトロニクス大手) 12/13

今年の iPhone12 のリリースは1ヶ月遅れたが、iPhone13 は例年通りのスケジュールに戻る見込み。CPUのA14は、80%以上を TSMC に生産委託。5nm ラインを使う予定。

4. Hon Hai Precision (台湾のEM最大手) 12/12

次世代のエレクトロニクス技術として、量子コンピュータの開発に60名の専門家を投入の計画。

5. Foxconn (台湾のEM最大手) 12/14

2021年上半期には、EV用のサプライチェーンに参入することについて楽観的な見方。

6. TSMC（台湾の半導体メーカー最大手）12/14

カーボンナノチューブを使ったトランジスタの形成技術で大きな進歩。シリコンを使う半導体デバイスに一歩近づく。

7. TPCA（台湾の基板業界団体）12/15

2020年第3四半期の出荷額は、前年同月比6%増の1859億台湾ドル（63億米\$）。テレワークの拡大に伴うモバイル機器の増加が需要を押し上げる。

8. Engineered Materials Systems, Inc.（米国電子材料メーカー）12/15

インクジェット・ディスペンサーでSMT用の接着剤を塗布し、ポリマー厚膜回路の部品実装の信頼性を高める。

9. Samsung Electronics（韓国エレクトロニクス企業大手）12/15

世界の折曲げ可能なスマートフォン市場で88%のシェアを確保、業界のランキングトップの地位を維持。

10. Apple（米国のエレクトロニクス企業大手）12/15

インドでのiPhone組立を行なっている台湾の契約メーカーWistronが、現地で発生している労働者の騒乱について、関与を調査。

11. TPCA（台湾の基板業界団体）12/16

2020年の1～9月のプリント基板出荷は、前年同期比7.9%増の2273億台湾ドル。

（注）このヘッドライン・ニュース・レターは速報性を重視するために、若干の誤訳や数字の変換に誤りがある場合もございます。ご了承下さい。

DKNリサーチ
栄泰産業株式会社

DKNリサーチのイベントスケジュール

* 2020年11月30日午後1:00オンラインセミナー「厚膜印刷回路技術の最新動向—製造プロセス、導電性インク、絶縁・機能材料技術応用展開まで」
沼倉研史、サイエンス&テクノロジー主催、<https://www.science-t.com/seminar/B201100.html>

* 2020年8月26日午前13:00オンラインセミナー「モノコック印刷回路-三次元配線のための新しい回路技術」沼倉研史、ピーバントットコム
www.p-ba.com

* 2020年8月27日オンラインセミナー「モノコック印刷回路」沼倉研史、サイエンス&テクノロジー <https://www.science-t.com/seminar/B200840b.html>

* 2020年1月20~21日、「ウエラブルデバイスの印刷形成と材料に求められる課題」、最近の化学工学講習会、化学工学会関東支部主催、東京、早稲田大学55号館

※すでに終了したセミナーや講演であっても、使われたテキストはデジタルデータで利用可能になっていますので、ご希望があればご連絡ください。

最近のDKNリサーチの論文、出版物

* 連載「ポリイミドフィルムものがたり」沼倉研史、コンバーテック、加工技術研究会

* 連載「厚膜印刷回路入門」沼倉研史、エレクトロニクス実装技術、Gicho ビジネスコミュニケーションズ

* 「耐熱性透明フレキシブル基板の材料と加工技術」沼倉研史／溝口昌範、エレクトロニクス実装技術、2018年6月号、

下記URLを開けてみてください。最近のものの一覧をみることもできます。コピーライトの問題がないものは全文を閲覧することもできます。

<http://www.dknresearchllc.com/DKNRArchive/Newsletter/Newsletter.html>

<http://www.dknresearchllc.com/DKNRArchive/Articles/Articles.html>